



街路樹



「研修主任研修より」



「特別支援教育の充実に向けた学校支援の活用について」

今年度の研修主任研修は、新任研修主任を対象に、市内の小中学校の先生を講師に迎え、「現職教育の実践」というテーマで学校での取組みについて発表していただきました。現職教育を推進するうえでのポイントをご紹介します。



○小学校

- いわき市立平第五小学校 吉川 幸枝 先生
- ・「研究のための研究」にはしないで、教職員が「研究してよかった」「研究して楽しかった」「授業の引き出しが増えた」と感じる研究を進められるようにすること。
 - ・子供たちの学びの充実につながる研究を進めること。
 - ・一つの教科を追究する研究ではなく、学校全体を見据えた研究となるよう努めること。

○中学校

- いわき市立川部中学校 草野 千春 先生
- ・前年度の学校の実態をもとに、学校の教育方針に沿って、そのねらいを全職員に理解してもらうこと。
 - ・無理のない研究、生徒・教師の変容が分かりやすい研究、先生方がやりがいを実感できる研究を進められるようにすること。

各学校においては、課題や児童生徒の実態を踏まえた研究主題をもとに研究を推進していることと思います。児童生徒の資質・能力をいかに高めるか、その1つの視点が授業づくりです。授業づくりをリードしていくのも研修主任の大切な役割です。昨年度の現職教育集録を目にすると、コロナ禍においても前向きに授業づくりや授業改善に取り組む学校が数多く見られました。現職教育集録については、教育センター図書資料室での閲覧もできますのでご活用ください。

今回発表された先生方のポイントを踏まえ、教師自身が学びを止めないということを常に意識して現職教育を推進していきましょう。

各小中学校の学校経営ビジョンの中に「特別支援教育の充実」という目標を多く見かけるようになりました。では、特別支援教育が充実している具体的な姿とは、どのようなもののでしょうか。

各学校では、「子ども達の困難さを学校全体で共有している」「ケース会議を開き、子ども達への対応を考えている」「関係機関とつながり、支援策を一緒に考えている」等、管理職や特別支援教育コーディネーターを中心に取り組んでいることも多いと思います。ここで大切なのは、学校の全職員が『めざす姿』を共有していくことではないかと考えます。

教育支援室では、今年度も、子ども達の個に応じた支援や校内体制づくりのサポートとして学校支援を行っています。授業参観で先生や子ども達の様子を拝見したりこれまで学校で取り組んできた内容を伺ったりすると、管理職、担任の先生や支援員等、子ども達にかかわるそれぞれの立場の思いがとても強く伝わってきます。同時に、日々の悩みや不安を抱えている状況にあることも感じます。だからこそ、どのような姿を目指すのが大切になってくると思います。



『子ども達を中心に置き、子ども達がそれぞれの課題に向き合う姿を支えるために、学校が動き続けること』教育支援室が考える「特別支援教育の充実した姿」の一つです。子ども達の課題が全く見られない状態を目指すことではなく、教師が子ども達の思いや願いに寄り添ったかわりを、継続して行える校内体制づくりが充実につながるものと考えています。

教育支援室が行う学校支援は、課題解決のための答えを示すものではなく、学校のこれまでの継続した取組みにプラスアルファの見方を提案するものです。最近では学校支援を行った学校から、見方や考え方を広げ取り組んだ成果をお聞きすることもあり、とても嬉しく思っています。学校が動き続けるためのサポートとして、教育支援室を活用いただければと思います。

「初任者研修・新規採用養護教諭・学校栄養職員研修」〈一般研修②〉より



5月11日(木)に、初任者研修・新規採用養護教諭研修・新規採用学校栄養職員研修〈一般研修②〉をいわき海浜自然の家で行いました。初任者64名、養護教諭3名、学校栄養職員1名の計68名が参加しました。

午前中は、さわやかな青空の下、グループに分かれてカレーづくりを実施しました。研修者同士、まだ関わりの少ない中で、それぞれが積極的にコミュニケーションを図り、火を起こす、食材を切る、調理するなど、自分のやるべきことを考え、自ら行動し、協力して取り組む姿が見られました。

午後は、植田中学校の玉澤淳校長先生より「初任者・新規採用者に望むこと」について、講話をいただきました。お話は多岐にわたり、研修者は、子どもへの向き合い方、関わり方などについて深く考えるとともに、これから「どんな教師を目指すか」を意識するよい機会となりました。

また、その後の協議では「1ヶ月間の勤務を通して」をテーマに、4月からの教員生活について振り返りました。研修の感想からは、同じ課題や悩みをもった仲間がいて安心感をもてたり、その仲間が解決に向けて努力していることに勇気づけられたりし、協議の時間が研修者にとって有意義であったことが伺えました。

今後とも先生方にとってよりよい研修ができるよう、センター職員一同、支援して参ります。